

ニュースヘッドラインを毎夕配信中!

日刊**CARGO**メルマガ登録は

日刊**CARGO**

検索



ガルダ・インドネシア

平野ロジとOLT
契約締結で調印式

ガルダ・インドネシア航空(GIA)の日本支社は30日、平野ロジステイクスと、OLT(保税運送)に関する契約を締結した。これに伴い同日、都内のGIA日本支社で調印式を行った。GIAからは、リスナンディ・サエプラハマン(日本・韓国・中国・アメリカ地区総代表と、GIAの貨物部門であるSBU(Special Business Unit)ガルダ・カーゴの、ラジエンドラ・カルタウィリア副社長が来日。平野ロジステイクスからは、田中栄治代表取締役らが出席し、両社の代表がそれぞれコメントを述べた。



握手をするサエプラハマン氏(前列左)と田中氏(前列右)

今回の契約締結でGIAは、平野ロジステイクスが現在運行している成田、羽田、関西、名古屋、福岡など日本国内主要空港間の保税トラック輸送網が利用できる。日本発着貨物の輸送網の充実、利便性が向上することとさらなる増収につながるものとしている。なお、同契約の期間は、9月1日から来年8月31日までの約1年間となる。

平野ロジステイクスの田中代表取締役は、「航空貨物の保税輸送を30年以上手掛けており、日本でも大量輸送や環境問題などに強みがある」とし、昨年から導入した新型セミ・トレーラー車「+1」(プラス・ワン)を例に挙げた。同車両では、96センチ仕様のユニット・ロード・デバイス(ULD)を4枚搭載できる。同社は、同ULD5枚規模のフル・トレーラー車「+2」

も保有している。また、「今年の6月には、AEO制度の特定保税運送者に承認された。セキュリティ面やコンプライアンス面でも、自社の信頼性を高めている」と話した。

ネシアの経済は堅調に推移している。アベノミクスの効果もあり、日本路線の貨物事業も成長した」とコメント。さらに、「11月から週4便で乗り入れを開始する」とし、日本路線の事業拡大に対する積極的な姿勢を示した。

